

9月30日 第33回千代田平和集会

菱山南帆子さんの元気が出るトーク

戦争反対、改憲反対の新しい市民運動の広がりを縦横に語る

講師 菱山 南帆子さん（市民運動家）



講演する菱山南帆子さん

【はじめに】

今日は、主に、市民運動の広がりについて、お話したい。ペンライト行動、若い女性たちがデモ、集会に参加してきている。その背景についてお話したい。そのデモが一過性のものにならないためにどうしたらよいかもお話したい。

【改憲の危機】

国会は改憲派で埋め尽くされた

今、戦後最大の憲法の危機だと思う。

私は、13歳の時から市民運動をやっている。24年くらいやっている。そのなかで、今が一番の憲法の危機だと思っている。国会の中は、ほとんど自民党、改憲勢力で占められている。改憲に向けてどんどん進められていく、歯がゆい状況だ。今、高市 VS 市民となっているのではないか。先の総選挙では、多くの立憲野党の議員が落選した。国会内では、少数の改憲反対の議員が奮闘している。それを支えているのが、国会外の私たち市民である。しょっちゅう、国会前や全国でペンライトを持って抗議している。高市さんにとっては、私たち市民が邪魔な存在になっていると思う。右翼や警察の妨害もある。

今度の臨時国会では、通信傍受法の拡大、国家公務員の運動の規制、スパイ防止法など、国民規制の動きが出てくる。私たちの運動をどう規制していくか、野党が這い上がってこれないように衆議院議員定数削減を行おうとしている。比例定数、45議席減らそうとしている。ひどい話だ。少数野党はみんな議席を減らすことになる。多様な民意を切り捨てるものだ。女性の議員も減らされる。名だたる女性たちが声を上げて、比例定数削減に反対している。女性が小選挙区で当選するのは難しい。だから、女性にとって比例選挙区が重要である。世界で見ても日本の国会議員は少ない。女性の国会議員も少ない。初の女性首相の高市さんが比例定数を減らすと言うから、グロテスクだと思う。高市さんのせいで選択的夫婦別姓制度も実現が厳しくなっている。

憲法も自民党が多数を握っているときに、改悪してしまおうとしている。衆議院における憲法審査会で改憲条文起草委員会をつくらうとしている。国会内の改憲反対勢力が少数の中では、非常に不安である。だから、国会外で起草委員会の設置に反対していくことが重要だ。全国で9条改憲反対の署名を行っているが、2項目めに起草委員会の設置に反対すると言うのが、入っている。

国会外における新たな戦前

今、長射程ミサイルが九州、沖縄に配備されている。軍国化が進んでいる。熊本では、ミサイルよりも復興に予算をつけてくれと言いたい。沖縄の島々では、戦争が起きた場合には、リュック一つで九州に逃げてくださいとなっている。九州だって危ないのに。島々の人たちはどう思っているのだろう。おばちゃんたちの会話では「どのリュックでいく」となっている。この話を聞いて、私は、こういうところから戦争は始まっているのだと思う。日常の中から戦争に組み込んでいくのだと。戦争の準備は始まっている。ぞっとしている。沖縄本島の住民は人口が多いので、避難は難しいから自宅待機だと。ひどい話だ。

戦争の危機を煽って、ポンコツのミサイルをアメリカから買って、配備している。戦争の準備は、危険なところにきていると思う。

私の地元は八王子だが、その町内会でのＪアラートの訓練では、バケツリレーをしている。今どきなんなんだと啞然としている。

着々と日本が戦争ができるようにしているのだと思う。

【情勢と政治の現状】

2026年高市首相による前代未聞の突然の解散総選挙

2・8の衆議院選挙では、立憲野党の議員が負けてしまった。ここまで負けるとは思わなかった。前代未聞の突然の解散総選挙は受け入れられないと思っていた。私は、呉で講演を行っていた。そこは雪で大変だった。ところが、自民党が大勝していた。しかし、比例票数は、岸田首相の選挙とあまり変わってはいない。

高市人気の秘訣？！

年配層と若年層から見る高市首相

だが、不可解な高市人気だ。若い女性に人気があるという。不思議だ。女性たちに、高市さんのどこがいいのと聞いた。口をそろえて女だからと言う。女だからって誰でもいいとはならない。高市さんの考えはちょっとと思っても、女だから頑張ってほしいと思ったと言う。地方では、高市人気がすごかった。女性の低い地位への反発が高市人気につながったのではないかと。若い女性の政治家というイメージは、悪いおじさんだそう。八王子の小学生の政治家のイメージは、3位、おじさん、2位、裏金、1位、萩生田となっている。嘆かわしいですね。そういう中で、女性の高市さんが出てきたことで、希望に見えてきたのではないかと。トランプ大統領にベタベタと媚びてすり寄る高市さんをみて、大変だということで応援したくなるというのだ。高市さんのことを「あざとかわいいさなえちゃん」と言う若い女性たち。高市さんは、笑顔を作っている。怖いですね。こうしたことに愕然とする。

長く続いている女性差別、男性優位な社会が高市人気を作っているのではないかと。

中道改革連合の登場

5Gと呼ばれた執行部

中道改革連合はなぜ大敗したのか

さて、中道改革連合の登場のときどうだったか。記者会見、全員男だけでやった。私は、詐欺だと思うと立憲の議員たちにいった。ところが、立憲の議員たちは、公明党の票がもらえて勝てるという。おじさん5人で立ち上げた党、5Gと言われた。共同代表は2G。反感を食らって、女性票が減った。結果として大幅議席減。高市さんを中道のおじさんたちがいじめていると思ったという。

また、中道、真ん中という選択肢はわかりにくいということだと思う。課題を解決するのに対して、真ん中という選択肢はないと思う。ど真ん中の生活とは、何だ、わかりにくい。今は、格差が二極化している。

共産、社民、れいわ(今はない)、左派政党も票を減らした
想像を絶するような嫌中感情が高市人気を後押し

負けたのは中道改革連合だけではなかった。共産、社民、れいわ、左派政党も票を減らした。何でか。中道はわかりにくいから、左派政党に支持が流れると思ったが、女だから応援したいの高市さんにいってしまった。

中道は、名前が悪い。中国への道だという。公明党は、親中派ではないか。沖縄でも玉城デニーが知事になったら、中国になるとデマがふりまかれた。それが信じられている。ネットが威力を発揮している。

真実の歴史、加害の歴史が伝えられていかないといけない。

【どん底の危機感から立ちあがる光の革命】

選挙での大敗から、どん底になっている。この焼け野原の状況を市民運動が引き取るしかないと思った。次の選挙までは、市民運動が頑張らないといけないと思った。

私たちは、投開票日翌日から立ちあがった。2月9日に八王子で街頭演説会を行った。10日には、高市改憲反対で首相官邸前で緊急アクションを行い、400人以上が集まった。初参加の人が多かった。特に若い女性たちだった。参加の人に話を聞くと、「初めてデモに来た。怖いから同僚も連れてきた。」と言う。そこから私は、ペンライトのデモを呼びかけようと思った。

- ・2月19日 議員会館前 1000人。ペンライトを呼びかけ。
- ・2月22日 市民連合主催の有楽町街宣 1000人
- ・2月27日 首相官邸前 3600人
- ・3月10日 国会正門前 8000人
- ・3月19日 議員会館前 1万1000人
- ・3月25日 国会正門前 2万4000人
- ・4月5日 池袋西口 6000人
- ・4月19日 3万6000人
- ・5月3日 有明防災公園 5万人

なぜ、ペンライトかと言うと、2024年の12月に、韓国のユン大統領が戒厳令を発動した。それに激怒した市民がペンライトを持って国会前に集まった。そのデモに私は、連帯の挨拶で呼ばれた。その時、目の前に広がる十数万の光の波を見て、感動した。この光の革命は、必ず日本に持ち帰ると言った。その約束を守るの、今だと言うことでペンライトデモを呼びかけた。それは、アツと言う間に全国に広がった。

なぜ、広がったのか。韓国では、歴史がある。1987年まで韓国は軍事政権だった。韓国では、17回もの戒厳令が出されている。1987年の民主化運動で勝利する。その後非暴力運動の象徴として、ろうそくデモを行った。日本でもキャンドルデモを行った。風が吹くと消えたりした。韓国でセオル号事件が起きたとき、朴クネ大統領が、そこに乗っていた遺族の思想調査を行った。それで、反発を食らった。大統領退陣デモが起きた。その時にろうそくを持って集まった。大統領側は、あんなろうそくは風が吹いたら消えるんだ、反対しても無駄だといった。それに対し、市民は、消えないろうそくを持ってきた。200万人が集まって、大統領を退陣に追い込んだ。日本では、2015年の安保法制反対があった。その時に、韓国の人たちが8000本のペンライトを送ってくれた。ユン大統領の退陣デモのときは、アイドルの応援ライトを持ってきた。何で持ってきたのか。韓国は、徴兵制がある。どんな有名なKポップアイドルでも、2年間の兵役がある。ファンの子たちは、どういう気持ちで待っているか。お願いだから、何事も起きないでくれと思っている。そう

した中で、ユン大統領が戒厳令を出したので、ファンは激怒して、ペンライトを持ってデモに集まった。

日本でもKポップアイドルファンはたくさんいる。韓国のデモの様子がSNSで流れてきた。日本のファンもデモが日常になっていた。日本の自由と民主主義、憲法の危機だということで呼びかけた。その呼びかけに応じて日本の若い子たちが集まった。ベテランの人たちには、ペンライトを持ってこいと言うのがわからなかった。

日本の平和憲法は、前文にあるように、日本だけが平和であればよいというものではない、世界のみなが平和でなければならないと書いてある。

こうした若い人たちの運動の立ち上がりがなぜ起きているのか。Kポップアイドルがきっかけだったこと。女性の参加者が多い。

デモへのハードルが低くなったこと。コールの形も変わった。Kポップの音楽に合わせてコールする。韓国で始まったことだ。それがすごく楽しい、クラブのような集会だと。これまでの集会・デモでは、大声で叫ぶ、軍隊のようで怖いと思っていたと言う。それがKポップでコールすることで、女性たちが入りやすくなった。年齢的には、30代40代が多い。この世代は、ゆとり世代。その時の教育が、参加者たちに生きている。自由に、リバティだ。

今、かわいいプラカード、面白いのぼり旗を作って参加している。豊かな発想を私たちは生かし切れなかった反省がある。今のデモは、自由度が高くなっている。

【新しい市民運動の始まり】

欲しいのは情報ではなく物語

この動きを私たちは、一過性のものにしないようにしていきたい。どういう社会にしたいのか、伝えていかなければならない。真ん中の生活と言うのは、よくわからない。具体的にストーリーを語っていかねばならない。

参政党がどうして伸びたのか。演説会などに行った。彼らは、ストーリーを言う。「皆さん、今の世の中はすごく冷たくないですか。隣に誰が住んでいるか分かりますか。名前は言えますか。隣に誰が住んでいるかわからない。そういう中で人々は暮らしている、そういう冷たい国になった。子どもたちは、何か悩みごとがあったら、先生や親、友達に相談しないで、チャット GPT (AI) に相談する。こんな冷たい国に誰がした。日本人は、やさしくて、団結の強い国だった。皆さん、映画「オールウェイズ、3丁目の夕日」を見たことがありますか。あのような時代に戻しませんか。地域で、子どもを育てる、あの時代に戻しましょう。あの時、なぜ、良かったか。外国人がいなかったから。」という。違和感なく話し、聞き手にイメージを与える。

自分がのめり込めるような物語

相手の目が輝くような未来志向の政策を

一人一人が「こんな社会になったらいいよね」の具体案を持つ

さて、私たちに、ストーリー性があるのか。どういう社会にしたいのか。社会主義になったら、どうい

○特徴

- ・初参加の年齢層は30～40代の女性が多い(ゆとり世代)
- ・なぜゆとり世代が？第一次安倍内閣の教育改悪以前の教育と比較
- ・10～20代ではなく30代なのはなぜか
- ・韓国の尹大統領弾劾デモとの共通点
- ・2017年キャンドル革命からの労働組合の爆発的拡大
- ・推し活と社会運動のコミット
- ・動員ではなくデモ映え？

社会になるのか。私たちの暮らしはどうなるのか、具体的なイメージができるのか。

私は、街頭宣伝などで、どういうことを言っているかと言うと、「皆さん、貯金なんかなくても安心して暮らせる社会にしませんか。老後のために、貯金して生きている人生なんておかしくないですか。お金がないと老人ホームに入れない社会っておかしくないですか。」と。そうすると反応が違う。どういう社会にしたのか、イメージできるように言うことが大事。そうして、税金がどこに使われているか。アメリカの言いなりになって、ポンコツの兵器を買う、1発3億円のトマホークミサイルなども買っている。これでいいのかと。

推し活民たちは日常のつらさから束の間の解放を求めている

何で、推し活を始めたのか聞いた。何かに夢中になっていないと、人生が辛すぎる。市民連合では、一人でも始める政策提言を始めた。政党は、どういう社会にしたいのかと言うことを市民が見ぬかなければならない。そういう力をつけないといけない。

受け身の運動ではなく攻めの運動を
悲壮感漂う運動に誰も魅力を感じない

当面は、統一自治体選挙に向けて頑張っていきたい。足元、地域の議員を増やさなければならぬ。先の沖縄知事選は、これまでの衆議院議員が一人もいなくなったところでのたたかいで、負けてしまった。二年後の参院選の足掛かりにしなければならぬ。市民運動が盛り上がってきているときに、力を尽くしていきたい。

最後に、韓国のハン・ガンさん、ノーベル文学賞を受賞された方の言葉を引用したい。「過去は現在を助けている」

現在の日本の状況に合っている。長年の運動の積み重ねの上に、今立っている。9条の会を立ち上げたが、今は、澤地久枝さんだけとなっている。9条の会の亡くなった方たちに今の状況を見せたいと思う。若い子たちが「9条 LOVE」といって、運動に参加している。9条の会の立ち上げた精神は今に生かされている。

私たちは、アップデートを繰り返し、頑張っていきたい。共に、頑張ろう。

(編集：千代田区労協 小林秀治)

第33回千代田平和集会で採択したアピールは、以下の通りです。

第33回千代田平和集会アピール

高市首相は、今年1月、大義なき自己都合解散を強行し、具体的な政策を語らず、党首討論から逃げ、不公平な小選挙区選挙制度で議席の3分の2をかすめ取り、「虚構の多数」を恃んで暴政の限りを尽くしています。国民への監視を強める国家情報局の設置、憲法違反の「国旗損壊処罰法」、地方自治をゆがめる「副首都構想法」、圧倒的な世論に反し女性天皇を否定する「改定皇室典範」など、国民が求めている悪法を次々と成立させました。

7月末に閣議決定された「骨太の方針 2026」は、武器の生産増強、他国への武器輸出を解禁し、日本を「死の商人国家」に変質させ、「継戦能力」を高め「防衛と経済の好循環」といい、軍事を「経済成長の力」と位置づけることで、軍事費に巨額の予算を振り向ける異常な経済政策です。

武器で“稼ぐ”には、戦争と軍事的緊張が絶えず必要となり「戦争待望国家」になります。軍事予算の財源を確保するため、教育、社会保障などを削減し、行き着く先は軍拡増税国家です。

トランプ大統領のイランや、ベネズエラへの侵略、指導者の殺害・拉致は国際法違反・国連憲章違反であり断じて許せません。こんなトランプに、高市首相は抱きつき、ひたすらこびを売り、武器を爆買いし、ICC赤根智子所長に対する無法な制裁にも抗議一つしない卑屈な態度をとっています。国会では、多くの政党が自民党政治にのみ込まれ「翼賛体制」が強まっています。

しかし、その一方で「戦争反対」「憲法守れ」のアクションが全国で燃え上がり「草の根」からの反撃が広がっています。国会前では、19日行動を中心として、毎回2万人・3万人が集まり市民の連帯の輪が広がっています。若い世代、子ども連れの方々などがペンライトを持って参加し、「高市首相は憲法守れ」「自由を守れ、平和を守れ」「戦争はいや」と声をあげ、政治を変えようという新しいムーブメントを起こしています。改憲反対デモは、全都道府県160カ所以上で連帯の行動となって発展しています。これらの運動は世論を変え、一時期60%以上あった内閣支持率を大きく引き下げ、毎日新聞の調査では不支持が44%と、支持の41%を上回る結果をもたらしました。

私たちのたたかいはこれからが正念場です。憲法がかつてないほど大きな岐路に立たされている今日、「憲法審査会」で、自民・維新政権や補完政党、極右政党が狙う、憲法の明文改憲を求める危険な策動を許さず、秋の臨時国会で、自民・維新政権が企む、民主主義の根幹を破壊する衆議院比例定数削減法案を成立させない運動は重要です。現代の治安維持法とされる「スパイ防止法」の制定も許しません。日本に核兵器を持ち込む「非核3原則」見直しは絶対認めません。

物価高騰で困窮する国民生活そっちのけで悪法を推進し、戦争国家づくりに暴走する高市首相を一刻も早く退陣させましょう。

トランプの蛮行だけでなく、ロシアのウクライナ侵略やイスラエルのガザ侵攻・虐殺も続いています。歴史を逆行させる「力による支配」に反対し、「戦争の準備ではなく平和の準備を！」「軍事対軍事の危険な悪循環ではなく、話し合い外交努力で、平和的に共存する道を！」と声を上げてゆきましょう。

2026年9月30日 第33回千代田平和集会

菱山さんの講演の前には、合唱団ソレイユが平和の歌を披露しました。

つづてソング 第2集より「7 なぜ生きる」と「8 涙が泣いている」「マルタの祈り」の3曲を披露しました。

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。

* 千代田区労協通信バックナンバー /
http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2023.htm

